

# 若者の和文化体験からみた温泉ゆかたの嗜好傾向

孫 珠熙・中嶋 史央里

## Preference Trends for Yukata Worn at Hot-Spring Hotels as Seen from Young Peoples' Experiences in Japanese Culture

Ju-hee SOHN, Shiori NAKASHIMA

### Abstract

In this study, we conducted a questionnaire survey on *onsen yukata* (casual cotton kimono worn at hot spring hotels) involving 375 university students (in Toyama, Tokyo, and Osaka prefectures). The results are as follows: As a reason to visit hot-spring resorts, the most frequent answers from both genders were “to have fun,” “to relieve stress,” and “to relax,” in this order.

Both genders liked light color tone *yukata* most. As the base color, male students liked dark blue best, followed by blue, while female students liked dark blue best, followed by pink.

Regional differences were seen in females' preference of yukata patterns: In Toyama, preference was divided between traditional Japanese flower patterns (50%) and modern Japanese geometric patterns (48.2%). In Tokyo, traditional Japanese flower patterns were preferred (68.9%) more, and in Osaka preference was more on modern Japanese geometric patterns/Japanese modern (63.1%).

For women's *yukata*, females liked yukata with colored flower patterns on a dark-blue background, while males preferred females to wear *yukata* with flower patterns on a pastel green or pastel blue background.

キーワード：温泉ゆかた，浴衣柄・模様，温泉宿，和モダン，若者

keywords：Onsen yukata, Yukata patterns, Hot-spring hotels, Japanese modern, Young peoples

## I. 緒言

浴衣や着物といった和装は、日本独自のファッションであり文化である。しかし現在では洋服を着るのが常で和装する機会はほとんどなくなってしまった。着物は特別な日にお祝いの席で着用し、浴衣は夏に花火大会などのお祭りでも着用する。このように和装する機会は減り、年に数回着るか着ないかという状態となった。

2020年の東京オリンピック開催で、外国人観光客の増加が見込まれる。そこで、和文化を気軽に体験できる温泉浴衣（温泉旅館で館内着としての浴衣）に注目した。振袖、イベント用浴衣については多数の研究があるが、温泉ゆかたに関する研究は殆ど見当たらない。そこで温泉浴衣に注目し、温泉浴衣の着用や温泉宿の利用は、若者にとって気軽に和文化体験できる機会になるのではないかと考えた。

しかし、温泉宿は予約が必要であったり、宿泊代が高かったりと、若者には利用しにくい部分がある。これらの問題点を解消し、一人からカップル、同僚、

家族まで多様な客層に和文化体験を促している温泉が人気を集めている。2003年に東京都で日帰り・宿泊施設の大江戸温泉物語が開業した。日帰りだと予約なしで利用でき価格も手頃で、選べる浴衣のサービスもあり人気を集めている。現代の多様化した消費者のライフスタイルに合う温泉施設が増えれば、若者や外国人も利用しやすくなり和文化を体験できるようになる。

温泉浴衣に関するこれまでの研究では、浴衣の着装体験が温泉地域の活性化やファッションセラピーに及ぼす影響<sup>1)</sup>、温泉浴衣の装い行動の構造と特性<sup>2)</sup>、温泉宿利用と温泉ゆかたの嗜好傾向<sup>3)</sup>、温泉ゆかたの装い行動<sup>4)</sup>、温泉浴衣と晴れの場で着るイベント浴衣に抱くイメージ<sup>5)</sup>を明らかにした研究がある。浴衣を着る温泉に行くわけではないと思う服装無関心 Cluster (群) の消費者は女子より男子の方がより多く見られる<sup>4)</sup>。しかし、ファッションが人のこころに与える影響や「Social Psychology of Dress」などの著書<sup>6~17)</sup>では服装が気分を変える力を持っていることを多くの研究事例から論じている。

一方で、温泉浴衣は温泉宿において集団で着る制服としての和装である。集団で着ると非日常の体験や祭りの気分を味わえる。最近、旅行会社では色浴衣が着られ温泉宿を宣伝している。2016年12月には大江戸温泉物語（東京都お台場）を真似して中国の上海にコピー版「大江戸温泉物語」がオープンしたことから、外国人に異文化体験は大変興味深いと考えられる。以上の現状を踏まえ、本研究では温泉宿の場所ではなく「場」の空間で、心地よさを共有できる温泉浴衣を調査し、温泉地域の活性化につなげることを目的とする。

## II. 方法

### 2-1. 調査方法

本研究は質問紙調査で行った。調査時期は2016年6月から7月である。富山県・東京都・大阪府の大学生を調査対象とした。標本数は375票、有効回答数は375票（全体の性別は男子66名、女子309名、項目により欠損値あり）である。

### 2-2. 調査内容

質問紙の測定項目は「基本属性」、「温泉宿の利用」、「温泉浴衣の嗜好」、以上の3つに大別する。研究の枠組みは図1に示す。

- 1) 「基本属性」は性別、出身地、年齢、身長、靴のサイズ、お小遣い額、以上6項目である。
- 2) 「温泉宿の利用」は利用頻度、誰と(複数回答)、動機、予算額、『温泉宿を選ぶとき重視すること(21項目)』、以上25項目とした。『温泉宿を選ぶとき重視すること』に関しては21項目を6段階評定尺度(6. 非常に重視する, 5. 重視する, 4. やや重視する, 3. あまり重視しない, 2. 重視しない, 1. 全く重

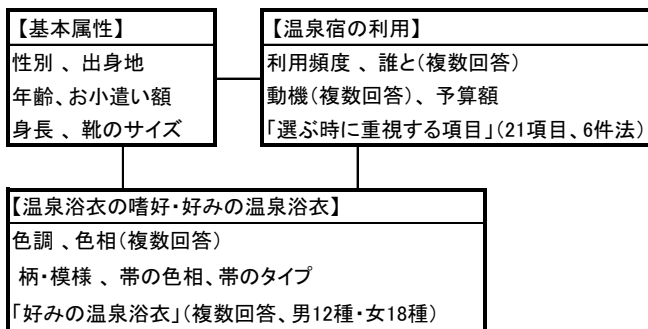


図1. 研究の枠組み

視しない) に対してそれぞれ6~1点を与え評定を求めた。各質問項目の内容はこれまでの研究<sup>1,2)</sup>を参考にし独自に作成した。

3) 「温泉浴衣の嗜好」は温泉浴衣の色調、色相、柄/模様、帯の色相・タイプ、好みの温泉浴衣(男性用)、好みの温泉浴衣(女性用)、以上7項目からなる。「好みの温泉浴衣」に関しては、実際に温泉地(石川県・東京都・神奈川県・富山県)を訪れ、温泉宿で使用されている温泉浴衣を写真で撮影し、その温泉浴衣120種類の中から色や柄が異なるよう30種類(男性用12種類、女性用18種類)を厳選した。その中から自身が着てみたい浴衣と、異性に良いと思う浴衣を複数回答で選んでもらった。

### 2-3. 分析方法

データの集計・分析にはIBM SPSS Statistics 23.0Jを用い、単純集計、クロス集計によるカイ2乗検定、平均値の差の検定(t検定)を行った。そして、地域の性別比較は大阪にギャップがあるため、富山のみで見た男女比較、女子のみで見た3地域間の比較を行った。

## III. 結果

### 3-1. 基本属性

3地域の男女詳細は富山：男子47名・女子56名、東京：女子119名、大阪：男子19名・女子134名である。出身地は男子で北陸(51.5%)が最も多く、関西(31.8%)と続き、女子は東京・関東(33.7%)、関西(31.8%)、北陸(16.5%)の順となっている。身長の平均は男子で171.3cm、女子で157.8cm、靴のサイズの平均は男子で26.5cm、23.5cmである。

1か月のお小遣いを見ると、富山は男子28,472円、女子28,889円となり、男女で金額に差はほとんどなかった。地域別に女子を見ると、富山28,889円、大阪23,015円、東京19,580円で地域差が大きくみられた。

### 3-2. 温泉宿の利用

#### 1) 温泉宿の利用頻度・宿泊予算

「温泉宿の利用頻度・宿泊予算」について表1に示す。「温泉宿の利用頻度」は、泊まりで温泉宿を年に何回利用するか、その回数を平均値で示した。

表 1. 温泉宿の利用頻度・宿泊予算

利用頻度 (年に泊まる回数/回)	富山 男	富山 女	東京 女	大阪 女	平均
	0.8	1.13	1.28	0.93	1.03
宿泊予算 (金額/円)	富山 男	富山 女	東京 女	大阪 女	平均
	12,194	11,751	13,625	11,627	12,299

富山の男女で比較すると、男子は0.8回、女子は1.13回となり、女子の方が男子より利用しており、男子は利用しない人が多い。地域別で女子を比較すると、富山と東京（1.28回）は年1回を上回る平均値となっているのに対し、大阪（0.93回）は利用しない人が多くなった。

「温泉宿の宿泊予算」について、富山の男女で比較すると、男子で平均12,194円、女子で11,751円となった。若干ではあるが男子の方が高い金額となった。地域別で女子を比較すると、富山と大阪（11,627円）はほとんど変わらない金額となり、東京（13,625円）は他地域より2,000円ほど高くなった。

2) 温泉宿を誰と利用するか

「温泉宿を誰と利用するか」(図2)について、富山の男女で比較すると、男子は友人（65.9%）との利用が最も多く、家族（56.1%）と続いた。一方、女子は家族（77.8%）、友人（59.3%）の順であった。女子は家族での利用が多く、男子は友人付き合いでの利用が多かった。地域別で女子を比較すると、東京は富山と似た傾向が見られ、家族が8割を占め、3地域の中では最も家族と利用する傾向が強い。一方、大阪では家族（65.5%）と友人（63.8%）で割合はほとんど変わらなかった。

3) 温泉宿を訪れる動機

「温泉宿を訪れる動機」(図3)について、富山の男女で比較すると、楽しむ（男子76.2%、女子90.7%）が男女共に圧倒的に多く、ストレス解消（男子45.2%、女子33.3%）、落ち着ける（男子33.3%、女子29.6%）が後に続いた。男子で他に意見があったのはお祝い（28.6%）、女子では贅沢・グルメ（31.5%）で、その点では男女に違いが見られた。地域別で女子を比較すると、3地域とも楽しむ（富山90.7%、東京93%、大阪82.6%）、ストレス解消（富山33.3%、東京25.4%、大阪22.3%）、落ち着ける（富山29.6%、東京26.3%、大阪33.1%）が上位となった。

4) 温泉宿を選ぶとき重視すること

「温泉宿を選ぶとき重視すること」21項目6段階尺度について、測定項目の評定平均値をプロフィール図(図4)に示す。平均値の差の検定(t検定)を行ったところ、富山の男女では、21項目中1項目は1%水準、3項目は5%水準で有意差が見られた。1%水準で有意差が出た項目は「4:宿の雰囲気が良いか」(図5)である。女子は6割が非常に重視すると答え、それに対し男子で最も多かった回答は重視する（39.4%）であった。5%水準で有意差が見

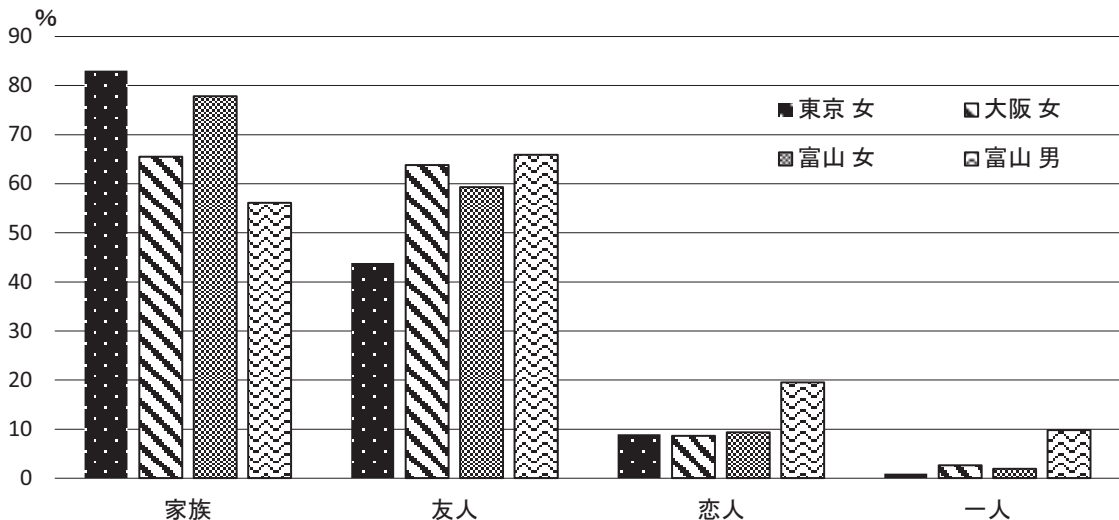


図 2. 温泉宿を誰と利用するか

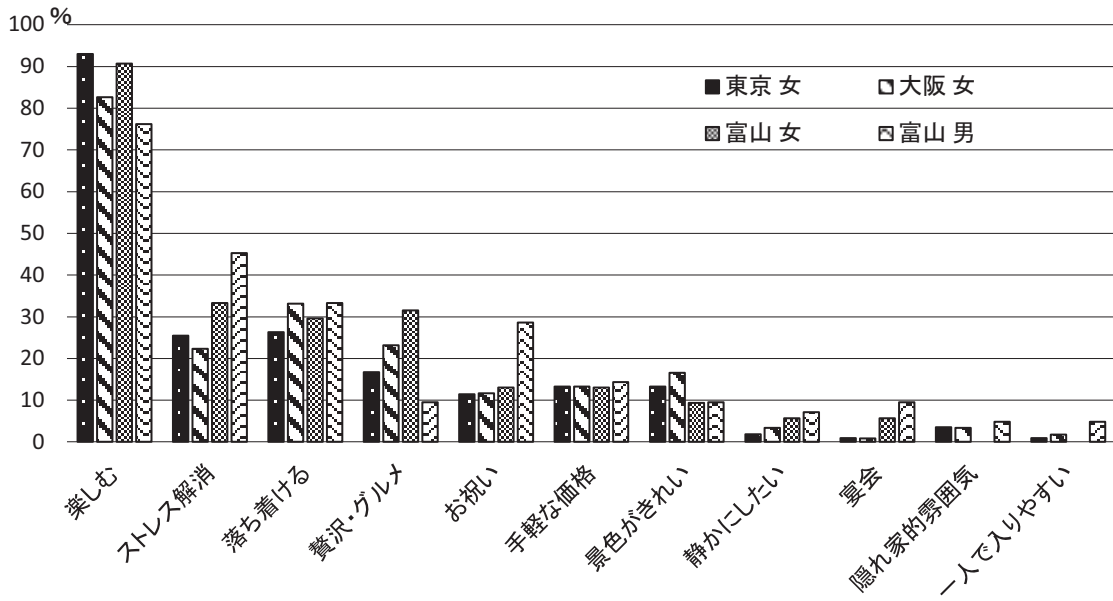


図3. 温泉宿を訪れる動機

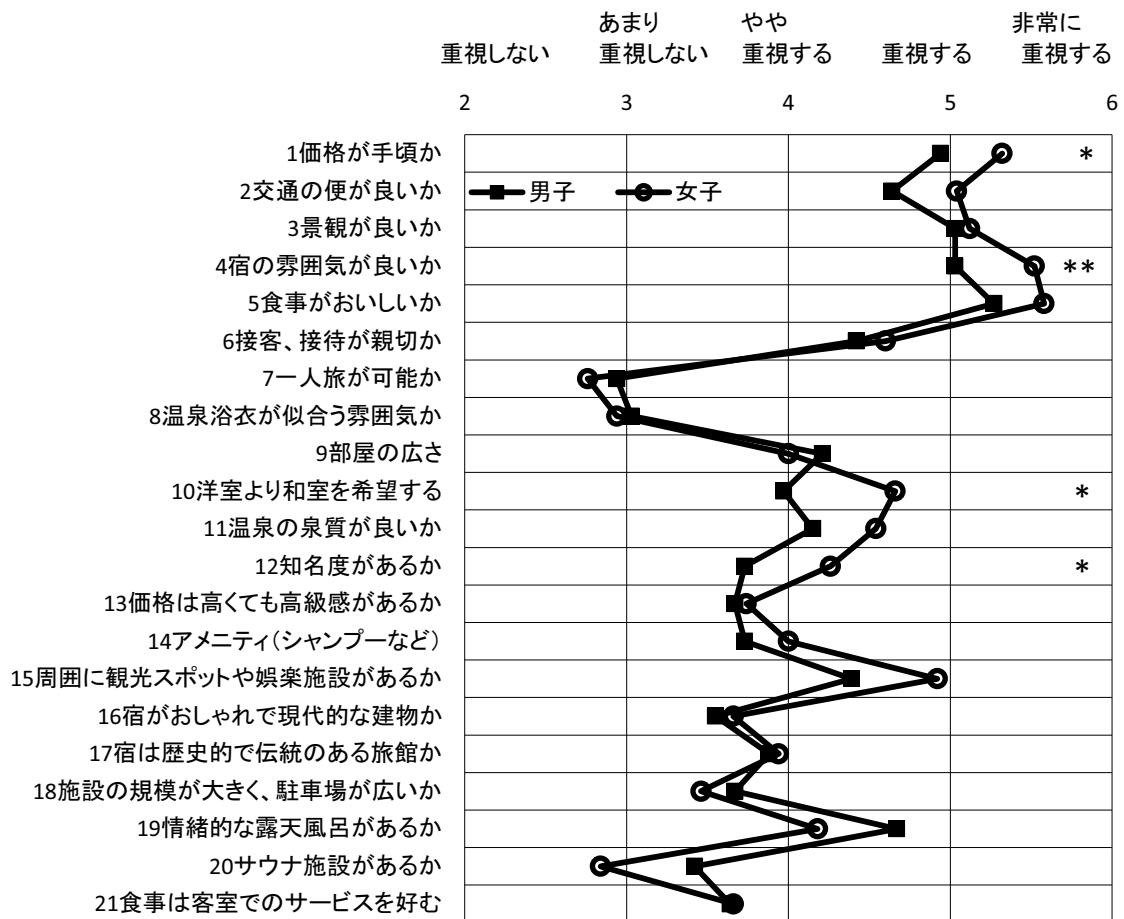


図4. 温泉宿を選ぶとき重視する項目  
(\*:  $p < 0.05$ , \*\*:  $p < 0.01$ )

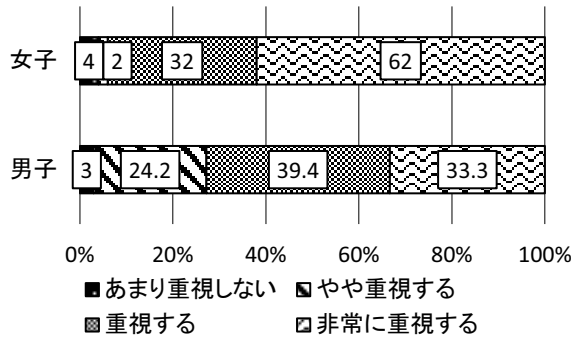


図5. 「4宿の雰囲気がよいか」 (\*\*:  $p < 0.01$ )

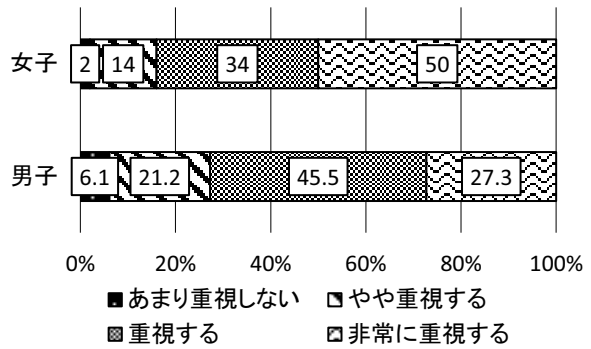


図6. 「1価格が手ごろであるか」 (\*:  $p < 0.05$ )

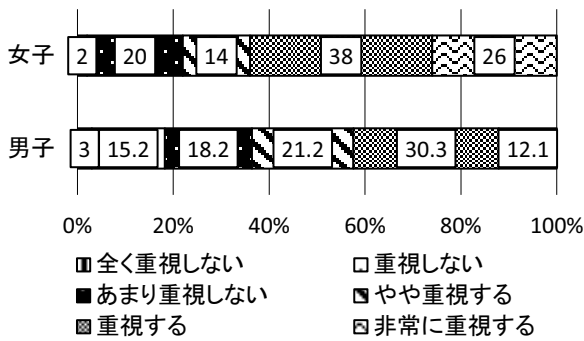


図7. 「10洋室より和室を希望する」 (\*:  $p < 0.05$ )

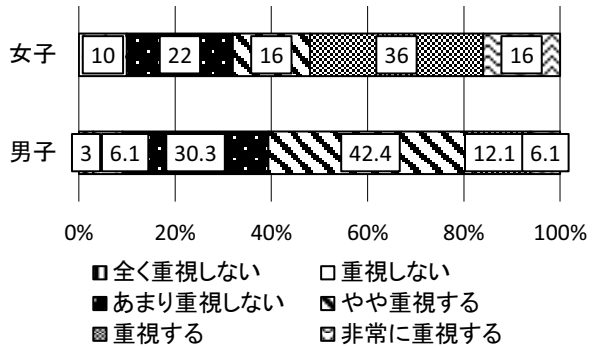


図8. 「12知名度があるか」 (\*:  $p < 0.05$ )

られた項目は、「1：価格が手頃であるか」(図6)、「10：洋室より和室を希望する」(図7)、「12：知名度があるか」(図8)、以上の3項目である。どの項目においても男子より女子の平均値が高い。21項目を全体的に見ても男子より女子の方が、平均値が高い項目が多く、女子は宿へのこだわりが強い傾向がある。一方、男子の平均値が高い項目を見ると、「19：情緒的な露天風呂があるか」、「20：サウナ施設があるか」など、温泉宿の施設に関連する項目が多かった。男女共に平均値が低い項目をみると、「7. 一人旅が可能か」「8. 温泉浴衣が似合う雰囲気か」が低い。しかし、先行研究<sup>4)</sup>では『温泉浴衣の装い行動』測定尺度35項目中、以下の「選べる浴衣のサービスがあった方がよい」「浴衣の柄や帯の色はたくさんあった方がよい」「温泉の浴衣の方が気軽に和体験できる」3項目の評定平均値が最も高かった。浴衣が似合う雰囲気かをあまり重視されない傾向があるものの、温泉浴衣に興味がないわけではなく、多様な温泉浴衣を求めていることが示唆された。

### 3-3. 温泉浴衣の嗜好

#### 1) 温泉浴衣の好きな色調

「温泉浴衣の好きな色調」(図9)について、富山の男女で比較すると、男子では明るい [B, P, Sf] (50%)、渋い [Lgr] (32.6%)、地味な [L, Gr, DI] (13%) の順で好まれ、女子は明るい (53.6%)、渋い・無彩色ニュートラル [N] (各12.5%) の順であった。ここでは、渋い色調は派手でなく落ち着いた色、地味な色調は華やかさがなく目立たない色として2つの色調を区別した。明るい色調は男女共通で最も好まれ、地域別に女子を比較しても、明るい(東京59.8%、大阪47.7%)は最も好まれた。

#### 2) 温泉浴衣の好きな色相

「温泉浴衣の好きな色相」(図10)について、富山の男女で比較すると、男子では紺 (57.4%)、青 (29.8%)、緑・紫 (各14.9%) の順で好まれた。女子では紺 (42.9%)、ピンク (37.5%)、白 (23.2%) の順であった。男子は寒色に意見が集まっていたが、女子は暖色も好む傾向があった。地域別に女子を比較すると、上位は紺(東京・大阪 各43.6%)、ピンク(東京35%、大阪33.8%)と続き、割合も3地域でほとんど変わらなかった。

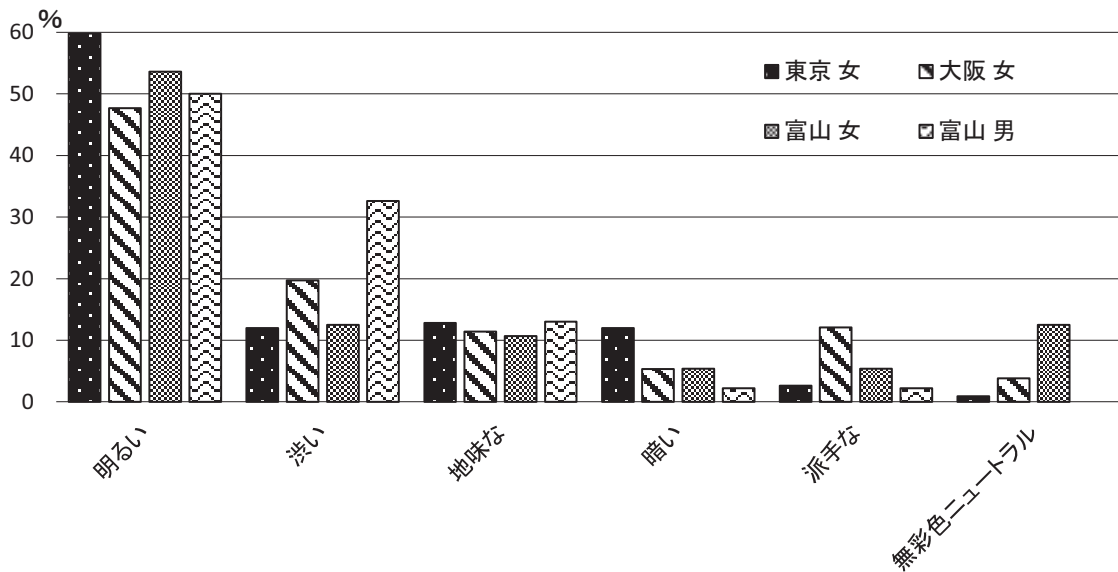


図9. 温泉浴衣の好きな色調

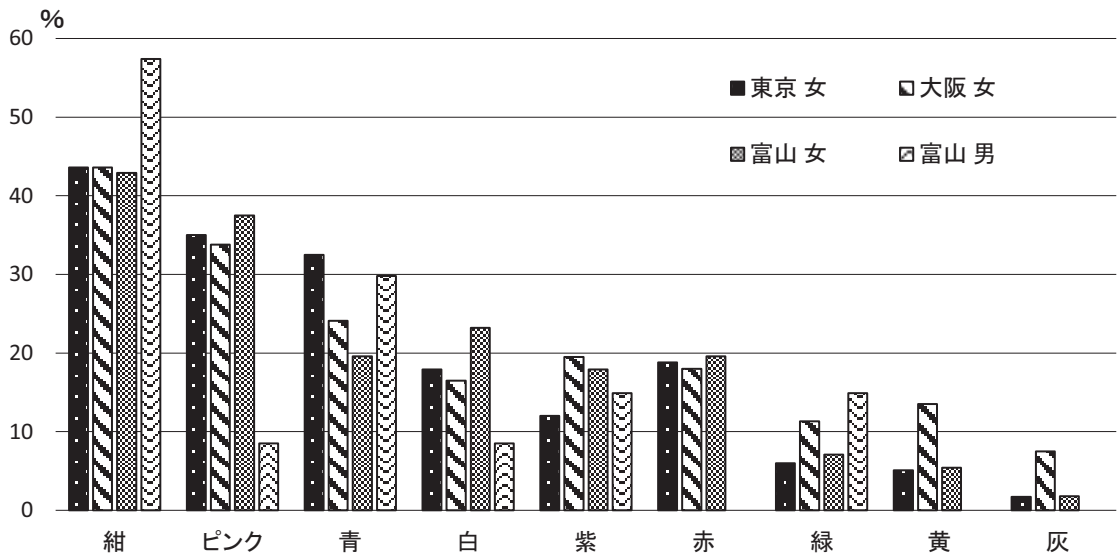


図10. 温泉浴衣の好きな色相

### 3) 帯の好きな色相

「帯の好きな色相」(図11)について、富山の男女で比較すると、男子では紺(39.5%)、青(16.3%)となり、女子では赤(51.1%)、紺(21.3%)と続いた。「温泉浴衣の好きな色相」と同様に、男子では65.1%が寒色(紺、青、緑)、女子では74.5%が暖色(赤、ピンク、黄)を好んだ。その他の自由回答では、浴衣の色に合わせて帯の色を決めるという意見も見られた。地域別に女子を比較しても、赤(東京55.5%、大阪45.7%)、紺(東京・大阪各15.5%)、ピンク(東京16.4%、大阪14.7%)の順で、上位の色相は3地域で一致し割合も大きな差はなかった。

### 4) 帯の好きなタイプ

「帯の好きなタイプ」(図12)について、幅が狭く硬い帯、幅が狭く柔らかい帯、幅が広く柔らかい帯、以上の3つのタイプから好きな帯を1つ選んでもらった。富山の男女で比較すると、男子は幅が狭く柔らかい帯(42.2%)が最も好まれ、女子は幅が広く柔らかい帯(61.8%)が好まれた。男女共通して柔らかい帯が好まれたが、幅の広さで意見が異なった。地域別に女子を比較すると、大阪は富山と同傾向にあり、幅が広く柔らかい帯(60%)が最も好まれた。一方、東京では幅が狭く柔らかい帯(52.9%)が最も好まれた。

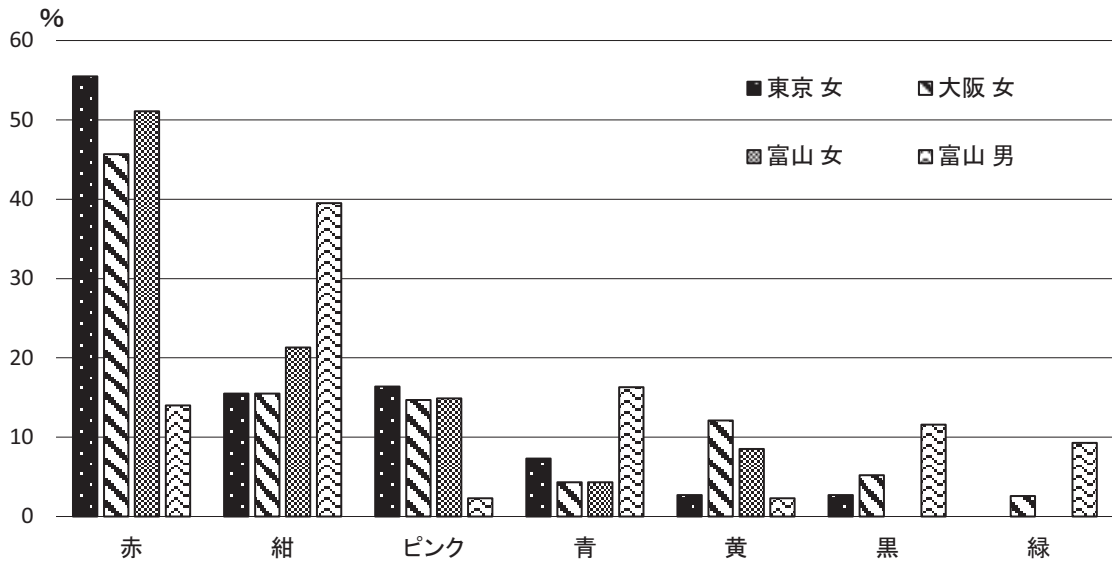


図11. 帯の好きな色相

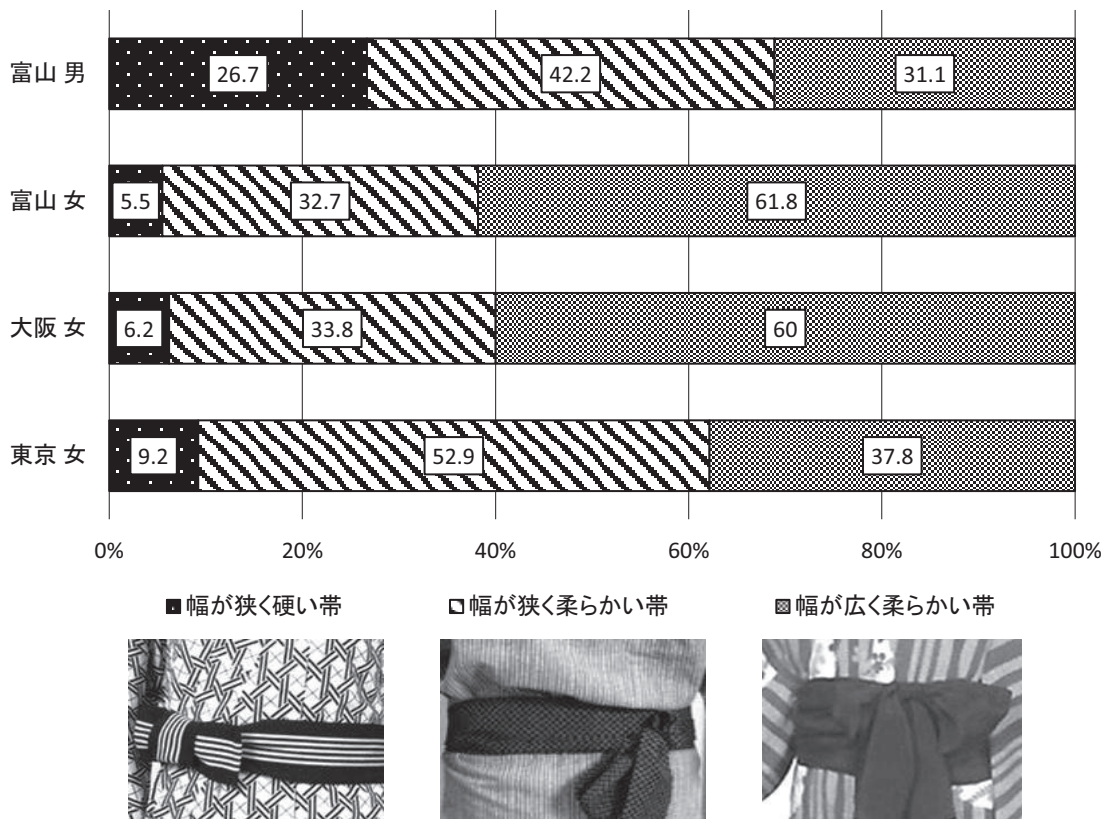


図12. 帯の好きなタイプ

### 5) 温泉浴衣の好きな柄・模様

「温泉浴衣の好きな柄・模様」(図13)について、和風で伝統的な花柄模様、和風で現代的な幾何学模様・和モダン、時代劇風で歴史的な人物や風景の模様、以上3つのタイプの中から好きな柄・模様を1つ選んでもらった。富山の男女で比較すると、男子は和風で現代的な幾何学模様・和モダン(46.7%)

が最も好まれ、女子は和風で伝統的な花柄模様(50%)と和風で現代的な幾何学模様・和モダン(48.2%)で意見が2つに分かれた。一方、地域別に女子を比較すると、東京では和風で伝統的な花柄模様(68.9%)、大阪では和風で現代的な幾何学模様・和モダン(63.1%)が好まれ、地域差が見られた。一方で、時代劇風で歴史的な人物や風景の模様

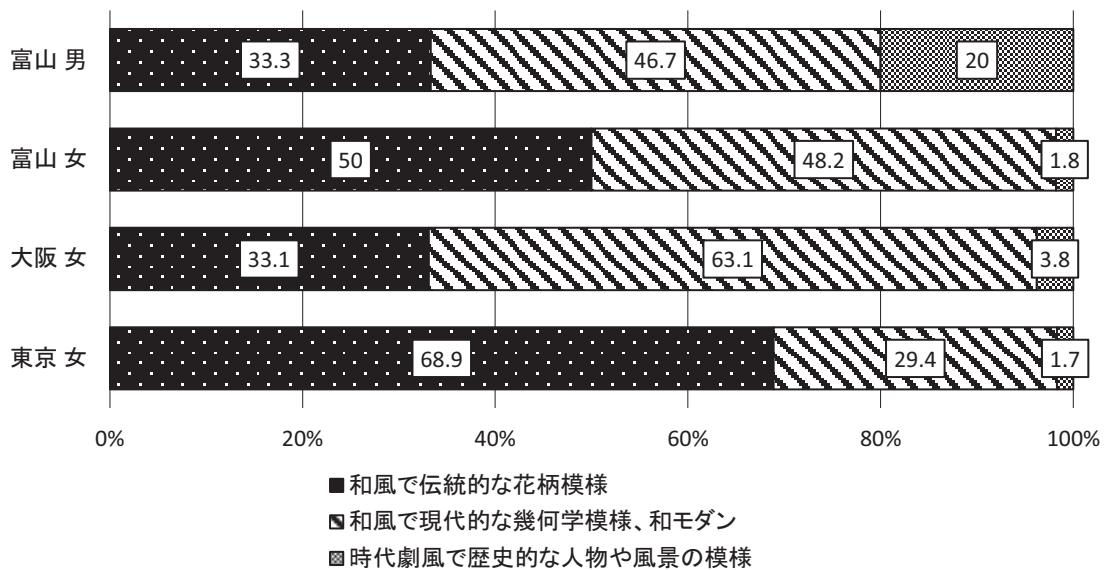


図13. 温泉浴衣の好きな柄・模様

はどの地域でもほとんど選ばれなかった。

#### 6) 好みの温泉浴衣

男性用浴衣12種類(図14)では、富山の男女で比較すると嗜好が一致した。上位は順に、紺地/滝十字柄(男子64.4%, 女子67.3%), 黒地/縦縞模

様(男子33.3%, 女子56.4%), 黒・グレー地/ひし形模様(男子31.1%, 女子38.2%)であった。どれも落ち着いた地色で直線形の柄が好まれた。地域別に女子を比較しても、多少は順位の違いがあったものの、同様の3種類が好まれた。

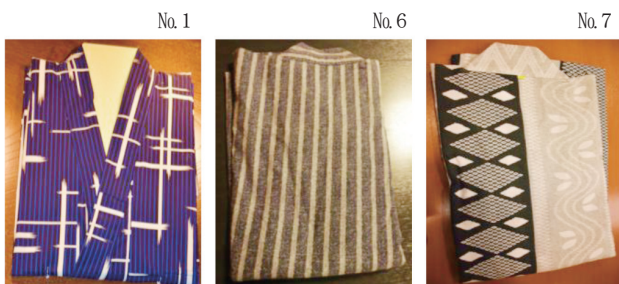
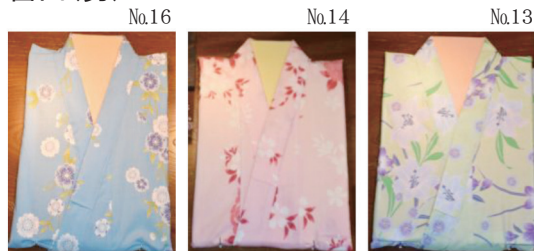


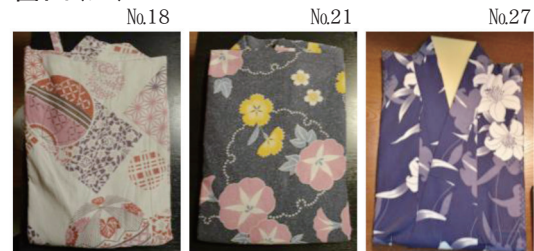
図14. 好みの男性用浴衣：上位3着(全体)

女性用浴衣18種類(図15)では、男子で水色地/かれん(53.3%), 薄ピンク地/バラ(48.9%), 薄黄色地/ききょう(42.2%)が上位となった。それに対し女子で上位にあがったのは、緑地/ピンクの鞠(58.2%), 濃いグレー地/朝顔(41.8%), 紺地/白百合(41.8%)であった。男子はパステルカラーの地色で花柄模様の女性らしいやわらかい雰囲気を

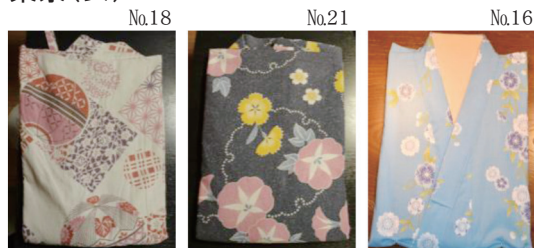
#### 富山(男)



#### 富山(女)



#### 東京(女)



#### 大阪(女)

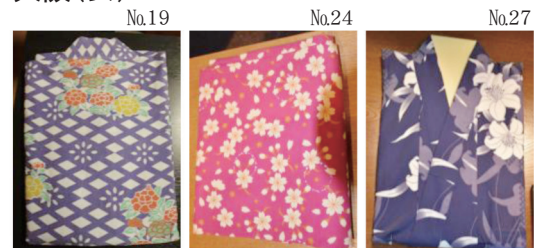


図15. 好みの女性用浴衣：上位3着(性別・地域別)



好んだ。一方で、女子は落ち着いた地色に花柄で色を取り入れた温泉浴衣を好む傾向があった。地域別に女子を比較すると、富山と東京で上位2着は白地/ピンクの鞠（富山58.2%，東京43.1%）、濃いグレー地/朝顔（富山41.8%，東京40.5%）で一致した。大阪の上位2着は白地/紫の幾何学模様・花柄（33.6%）、赤地/桜（32.8%）となり、富山と東京ではあまり人気のなかった浴衣が上位となった。上位5着までを見ると、紺地/白百合（富山41.8%，東京37.1%，大阪32%）は3地域ともに入り、富山の男子で挙がったパステルカラー地の花柄浴衣もランクインした。

## IV. 考察

### 4-1. 温泉宿の利用

#### 1) 男女別富山の比較

「年に泊まりで温泉宿を利用する回数」は男子で0.8回、女子で1.13回であった。男子は温泉宿に泊まりで行かない人が多く、女子は年に1回くらいは行くという人が多いといえる。「温泉宿を選ぶとき重視する項目」で全体的に女子の方が男子より評定平均値が高かったのも、女子はより温泉宿を利用する傾向にあるから理想が高くなるためだと考えられる。

「温泉宿を誰と利用するか」では男子が友人（65.9%）、女子は家族（77.8%）での利用が最も多い回答となった。男子は友人付き合いでの利用が多く、女子は家族団らんで利用する機会が多いといえる。「温泉宿を訪れる動機」としては、楽しむ（男子76.2%、女子90.7%）ためという回答が男女共に最も多く得られた。他の意見にはストレス解消や落ち着くためなどがあり、楽しんでリフレッシュしたいという思いが読み取られる。

#### 2) 地域別女子の比較

「年に泊まりで温泉宿を利用する回数」については、富山と東京は平均1回を超えているが（富山1.13回、東京1.28回）、大阪は1回を切って平均0.93回で利用しない人が多くいるといえる。この結果は、大阪に温泉施設が少ないことが影響し、利用のしにくさが原因として考えられる。

「温泉宿宿泊予算」では、富山（11,751円）と大阪（11,627円）で金額にほとんど差がなく、東京（13,625円）が他地域より2,000円ほど高くなった。

その原因の1つとして、東京は物価や地代が高いことが考えられる。

「温泉宿を誰と利用するか」については、家族か友人かで意見が地域ごとに分かれた。「家族」と答えた人は「手軽な価格」との負の相関を示し、「友人」と答えた人は「手軽な価格」と正の相関がみられた。家族で行く若者は親に負担してもらうことが想定されるので、価格を気にせず、負の相関となったと考えられる。一方、友人と利用する場合、宿泊費は自己負担となるので、手軽な価格を求めていると考えられる。

「温泉宿を訪れる動機」については3地域とも楽しむ（富山90.7%、東京93%、大阪82.6%）、ストレス解消（富山33.3%、東京25.4%、大阪22.3%）、落ち着ける（富山29.6%、東京26.3%、大阪33.1%）が上位となった。この項目に関しては地域差があまりないといえる。

### 4-2. 温泉浴衣の嗜好

#### 1) 男女別富山の比較

「温泉浴衣の好きな色調」について、男女共に明るい色調（B, P, Sf）を最も好んだ。「温泉浴衣の好きな色相」、「帯の好きな色相」では男子は寒色を、女子は暖色を好み意見が異なった。これは、男性は紺・青、女性はピンク・赤といったような温泉浴衣を用意している温泉宿もあり、洋服でも男性は寒色、女性は暖色を着るという場合が多くあるので、その2点が反映されたと考えられる。また男女共に紺（男子57.4%、女子42.9%）の浴衣が最も好まれたのは、従来から温泉宿で使用されているような温泉浴衣を想像したからだと考えられる。

そして最も違いが見られたのは、「帯の好きなタイプ」である。男子では幅が狭い帯（68.9%）が、女子では幅が広い帯（61.8%）が好まれた。これはお祭りなどで着るようなイベント浴衣を想像すると、男子では幅が狭い帯、女子では幅が広い帯が用いられる場合が多いので意見が異なる結果となったと考えられる。また、男女共に柔らかい帯（男子73.3%、女子94.5%）が好まれたのは、温泉浴衣が寝間着になることを考えて、寝やすさを求めたためだと考えられる。

「温泉浴衣の好きな柄・模様」では、男子は和風で現代的な幾何学模様・和モダン（46.7%）を最も好み、女子は和風で伝統的な花柄模様（50%）と

和風で現代的な幾何学模様・和モダン（48.2%）の2つで意見が分かれた。花柄模様は女性用というイメージが持たれる場合が多いので、男子はあまり選択せず、幾何学・和モダンに意見が流れたと考えられる。

「好みの温泉浴衣」では男性用浴衣で男女の嗜好が一致した。一方で女性用浴衣では男女で好みが大きく異なり、女子が着たいものと男子が理想とする女子に着てほしい温泉浴衣は一致しないといえる。

## 2) 地域別女子の比較

「温泉浴衣の好きな色調」について、3地域とも最も好んだのが明るい色調であった。「温泉浴衣の好きな色相」では、紺（富山42.9%、東京・大阪各43.6%）が最も好まれ、ピンク（富山37.5%、東京35%、大阪33.8%）が続く、両色共に3地域ほとんど同じ割合であった。

「帯の好きな色相」でも、赤（富山51.1%、東京55.5%、大阪45.7%）、紺（富山21.3%、東京・大阪各15.5%）、ピンク（富山14.9%、東京16.4%、大阪14.7%）の順で好まれ、3地域同じ結果が得られた。「温泉浴衣の好きな色相」・「帯の好きな色相」で少数意見を見ると多少の地域差があったが、最も人気を集める色相は地域差がないといえる。

「帯の好きなタイプ」では富山と大阪が同様の傾向で幅が広く柔らかい帯（60%）が最も好まれた。一方、東京では幅が狭く柔らかい帯（52.9%）が最も好まれた。どの地域でも硬い帯は人気がなく、柔らかい帯が9割以上を占め、男女比較と同様に寝やすさを考えて柔らかい帯が人気を集めたと考えられる。

「温泉浴衣の好きな柄・模様」では、富山は和風で伝統的な花柄模様（50%）と和風で現代的な幾何学模様・和モダン（48.2%）で意見が2つに分かれた。一方、東京では和風で伝統的な花柄模様（68.9%）、大阪では和風で現代的な幾何学模様・和モダン（63.1%）が好まれ、地域差が見られた。どの地域でも共通して時代劇風で歴史的な人物や風景がほとんど選ばれなかったのは、具象的な柄が好まれず、抽象的な幾何学模様や女性らしい花柄模様が好まれたからだと考えられる。

「好みの温泉浴衣（男性12種と女性18種）」では、男性用浴衣について地域別に比較しても、多少は順位の違いがあったものの、同様の3種類が好まれた。女性用浴衣では、富山と東京は上位2着が一致し、

似た結果になったが、大阪は他地域には人気があまらなかった温泉浴衣が上位となった。その大阪の上位の浴衣は少し変わったデザインであり、派手な色であったので、ヒョウ柄など個性的で派手なファッションを好む大阪の特徴が見られたと考えられる。

## V. 結論

本研究では大学生375名を対象に「温泉宿の利用」、「温泉浴衣の嗜好」について質問紙調査を行った。そして、性別、地域別に特徴や差異を明らかにした。その結果、「温泉宿の利用動機」や「温泉浴衣の好みの色調」など、男女や地域関係なく、どの若者にも共通してみられる嗜好が明らかとなった。一方で男女や地域で嗜好の違いも見られ、考慮すべき点が明確になった。

以上の点から、多様なライフスタイルやニーズに合わせた温泉施設づくりが若者に温泉利用をしやすくし、和文化体験につなげられる。そして多くの若者が温泉地域を訪れることで、温泉地域の活性化も期待できることが示唆された。

## 謝辞

本研究に関する調査票の配布、回収、郵送に快くご協力（当時2016年）をいただいた、（大阪文化服装学院）校長関義徳先生・副校長松下美恵子先生、（東京家政学院大学）蒲池香津代先生に心よりお礼申し上げます。また、被験者の皆様に深く感謝を申し上げます。浴衣写真を撮らせていただいた富山県の延楽旅館（宇奈月温泉）、金太郎温泉、石川県の瑠璃光、東京都の大江戸温泉物語、神奈川県（株）藤田観光ホテル箱根小涌園など各ホテル・旅館の支配人に深く感謝を申し上げます。

Acknowledgement: This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP15K00749 (研究代表者: 孫珠熙). 本研究は文部科学省科学研究費 JP15K00749 の助成を受けて実施した。

## 参考文献

- 1) 孫 珠熙; 浴衣の着装体験が温泉地域の活性化やファッションセラピーに及ぼす影響, 富山大学人間発達科学部紀要, 10巻1号145-159 (2015)
- 2) 孫 珠熙, 瀬戸 翔平; 温泉浴衣の装い行動の構造と特性, 日本家政学会第68回大会発表要旨

- (2016.5)
- 3) 中嶋 史央里, 孫 珠熙; 若者の和文化体験からみた温泉宿利用と温泉ゆかたの嗜好傾向, 日本繊維機械学会北陸支部, 研究発表会要旨集 (2016.12)
- 4) 孫 珠熙, 中嶋 史央里; 若者の和文化体験からみた温泉ゆかたの装い行動: 地方と都市の比較, 日本繊維機械学会北陸支部, 研究発表会要旨集 (2016.12)
- 5) Ju-hee SOHN, N. Kanayama, K. Kamachi; Differences in the Impressions Associated with Yukata Worn at Events and Those Worn at Hot Spring Resorts, and the Differences in Yukata Preferences based on Gender, IFHE 2016 (国際家政学会大会 International Federation for Home Economics).
- 6) 神山進; 被服心理学, Social and psychological Study of Human Behavior Related to Clothing, 光生館 (1985)
- 7) 日本繊維機械学会被服心理学研究分科会編; 被服心理学 (1988.9)
- 8) 辻 三郎; 感性の科学, サイエンス社 (1997)
- 9) 神山進編集; 被服行動の社会心理学, 装う人間のこころと行動, 北大路書房 (1999)
- 10) 小林茂雄編著; 装いの心理と行動, アイ・ケイ コーポレーション (2017)
- 11) 中川早苗; 被服心理学 (新版) Social psychology of Clothing, 日本繊維機械学会 (2004.4),
- 12) Kim K. P. Johnson (著), Sharron J. Lennon (著), 高木修訳; Appearance of Power 外見とパワー, 北大路書房 (2004)
- 13) 鷺田清一; 服の力, 岩崎書店 (2007.3)
- 14) 鷺田清一; 服とコミュニケーション, 岩崎書店 (2007.3)
- 15) 牛腸ヒロミ; ものとして, 心としての衣服, 放送大学教育振興会 NHK 出版 (2011)
- 16) Dr. Jennifer Baumgartner; You Are What You Wear, What Your Clothes Reveal About You, Lifelong Books (2012)
- 17) Jean-Gabriel Causse 著, 吉田良子訳; 色の力 (2016.6)
- 18) Sharron J. Lennon (著), Kim K. P. Johnson (著), Nancy A. Rudd (著); Social Psychology of Dress (英語) ペーパーバック (2017.3)
- (2017年1月17日受付)  
(2017年3月9日受理)

## 和文要旨

本研究では大学生375名(富山・東京・大阪)を対象に質問紙調査を行い, 以下の結果を得た。

「温泉宿を訪れる動機」は, 楽しむ>ストレス解消>落ちつけるが男女共に最も多かった。

「温泉浴衣の好きな色調」では, 男女ともに明るい色調が最も好まれた。「好きな色相」は, 男子は紺>青の順で, 女子は紺>ピンクの順であった。

女子の「温泉浴衣で好きな柄・模様」は, 富山は和風で伝統的な花柄模様(50%)と和風で現代的な幾何学模様・和モダン(48.2%)の2つに意見が分かれた。一方, 東京では和風で伝統的な花柄模様(68.9%), 大阪では和風で現代的な幾何学模様・和モダン(63.1%)が好まれ, 地域差がみられた。

好みの女子用温泉浴衣は, 女子は紺地色に花柄で色を取り入れた浴衣を好み, 男子は(異性に着てほしい)緑色・青色のパステルカラーの地色で花柄模様を好んだ。